

令和 6 年度 大学塾 第 1 ステージ 開催講座 案内

近藤直子 音楽講座 ～ 声を育てるエクササイズ～

人間にとって「声」は大切な機能です。日常では当たり前なのに、そこに意識が入るといろいろな考えに惑わされて、意外と悩んでしまう事があります。特に人前で歌おうとすると様々な課題に直面し、自分の思うとおりに声が出なくなり、楽しいはずの音楽が“音が苦”になってしまった経験をお持ちの方もいらっしゃることでしょう。本講座では初心者から上級者までアマチュアの合唱を長年指導している近藤直子が、人真似ではなく自分の本来の声と出会うエクササイズの方法を皆さんと一緒に理論と実践を交えて学びます。自分の本当の声って何なんでしょう？



近藤直子氏

毎回 土曜日 午後 2 時～ 4 時

講師：近藤 直子 氏 足立区合唱連名理事長 NAO コーラスグループ主宰

日時：6 月 14・21 日 (金曜日) 全 2 回 午後 2 時～4 時

会場：足立区生涯学習センター (学びピア 21 内) 5 階 研修室 1

講義内容：第 1 回 発生の仕組み 呼吸との関わり 呼吸と声の関係 息の使い方など

第 2 回 骨格と筋肉と呼吸の関係 姿勢と発声 座骨と足底など

特別企画 生涯学習職員研修会 参加報告 (3 月 25 日)

「これからの新たな生涯学習とは？」

この度の、職員研修会では激動の令和から学ぶ生涯学習の未来図を、第 1 部の講演会、第 2 部の 100 年大学学び直し博士表彰式、第 3 部のパネリストによる意見交換会・参加者との質疑応答と交流が行われました。

◆第 1 部 特別講演『*Unlearn! 生涯学習～よく生きるための学びほぐし』*新たな自分自身を再構築し続けていく学び方
講演者：萩元直樹氏(サステナブルタウン代表)ローカルイベントプロデューサー

講演内容：アンラーンできるか否か？ 生涯学習の一番の原動力は、成長、好奇心、自己啓発、生きがい、キャリア、使命感、個人的な欲求、社会的要求、などで主体性(ある程度決められていることを自ら率先して行う態度や性質)と自主性(自らの意思や判断に基づいて、自らの責任のもとで行動すること)が求められる。公務員時代には社会教育として対話(地域に積極的に出て市民と共に問題の理解に務めた)、協働(まちを生きる市民の力に何よりの可能性を信じた)、専門性(社会教育主事として市民との生きた学び)、つまり専門的な知識のアンラーンを実施した。また、生涯学習の重要性と複雑化・高度化する問題についても深く解説され、アンラーンとは「学びほぐし」で、学んだ知識・思考・習慣などを見直し新たに発展成長させていく、アンラーンのサイクル(脱学習→再学習→ブレークスルー→脱学習)が重要と自ら実践で学んできた数々の経験を基に社会教育のノウハウを活かした独自の行動学(学習方法)が熱く語られました。

◆第 2 部 2023 年度・学び直し支援事業 あだち 100 年大学学び直し博士表彰式 (代表 2 名の方に授賞されました)

◆第 3 部 パネリストによる意見交換会、会場との質疑応答・交流会

コーディネーター：萩本直樹氏(サステナブルタウン代表)

パネリスト：荒川区立生涯学習センター・港区立生涯学習センター(ばるーん)

すみだ生涯学習センター(ユートリア)・足立区生涯学習センター

葛飾区教育委員会事務局生涯学習課

意見交換：都内 5 区の生涯学習センターの代表者や社会教育主事からは「これからの新たな生涯学習とは？」について「推し事業」や思いが紹介されました。

(金子勝治)



令和5年度 大学塾 第4ステージ 開催報告

足立の伝統工芸 三味線と篠笛

3月22・29日（金）の2日間にわたり、楽器音が他の教室の迷惑にならないように、独立している生涯学習センター研修室1において開催された。講師は美鈴屋3代目の鈴木祐一氏と大塚竹管楽器4代目の大塚敦氏。応募者は33名、受講者は28名、延人数は52人であった。

第1回は「三味線」で、まず始めにNHK紅白歌合戦で伴奏を務めたという講師が津軽三味線で「津軽じょんがら節」を披露し、受講者の心を捉えた。その後スライドを用いて、美鈴屋三味線店の歴史・三味線の構造・三味線の種類と分野別の使い分け、更に津軽三味線の歴史が紹介された。太棹・中棹・細棹の使い分けはYouTubeの画像を使って紹介された。後半は受講者全員が2挺の三味線を使って、演奏体験を行った。ほとんどの人が初めての体験であり、三味線の難しさを知ると共に、満足な表情が見られたので、貴重な体験を喜んでいただけたものと思われる。その後2代目の機械を使わず、淡々とチョウナという道具で作りに上げて行くDVDが紹介された。最後に先生の津軽三味線で「津軽よされ節」の演奏を楽しんだ。



第2回は「篠笛」でまず始めにイメージ映像の「記憶の音色」が上映された。これはコロナの影響で3年間中止が続いた祭りのお囃子に使われる篠笛が、またいつかかつての賑わいをもたらすことを願って大塚氏が制作したもので、その思いが感じられるコメントが紹介された。その後、スライドで大塚竹管楽器の歴史と獅子田流篠笛作りが紹介された。竹は材料として仕入れていたものが、商品として入荷しなくなったので自ら竹林に入って材料の伐採からするようになったことや、詳しい映像は技術の流出に繋がるので、製造過程については口頭での説明で解説された。また「足立ブランド」の映像で製造の一端が紹介された。後半はまず籐巻きの実演が行われた。さすがに実演希望者は難しそうに思えたのかいなかった。演奏体験で全員1本づつ篠笛が配られ、まずは音だしを経験し、次に簡単なメロディーを演奏した。一部経験者がいて全員でなんとなくメロディーを表現することが出来た。最後に先生が一曲演奏して講座が終了した。

受講者の言葉・民謡を長年習ってきましたが、三味線に触れるのも弾くのも初めてでした。一つ一つ手作りでというところはとても驚きでした。また、足立区内にお店があり、代々技を受け継いでいると聞いて、一度行ってみたいと思いました。篠笛は体験が十分できてよかった。触れることで身近に感じられました。篠笛が3種類あることや、指穴のふさぎかたもわかった。・三味線をかかえて音を聞いたのは初めてで、音の響きを感じました。すばらしい体験でした。(篠笛)も体験が出来て楽しかったです。篠笛制作は本当に細かく美しく、音はやさしく大変良い時間を過ごしました。・三味線の作り方のDVDはとても印象に残りました。もっと体験をしてみたいと思いました。篠笛は籐巻きが見れてすばらしいと思いました。唄用とドレミ調の違いがわかったのも良かったです。(糸井史郎)



日本経済入門 2024 —中国・人口・賃金—

4月6・13・20日(土)の3回にわたり研修室1にて開催された。講師は元農林水産省課長職の柴田寛氏。応募者は33名・受講者は31名・出席者は累計79名であった。

第1回は「中国経済の変貌と課題を考える」で、GDP世界第2位の中国経済の急激な減速が日本や世界各国に大きな影響を与えていることを踏まえ変貌の現状と課題が解説された。GDPとは国内の企業が1年間に生み出した付加価値(利潤+人件費+配当)を合計したもので、日本ではサービス業が8割を占めている。中国に対する日本のGDP比率は、1990年は7.93倍、2010年は0.95倍、2023年は0.24倍となっており、日本が2010年をピークに下がるが、中国はその後成長を続け2010年に逆転した。一方1人当たりのGDPは1990年に日本が74.1倍あったが、2022年は2.7倍にまで近づいている。中国経済が減速期に入ったのは、1. 建設・不動産部門の悪化 2. 人口減少と高齢化 3. 国進民退などがあげられる。鄧小平の社会主義市場経済(民進国退)により民営企業が成長したが、習近平が民進国退は社会主義の否定になるとして、国進民退に方針を転換した。

第2回は「我が国の人口動向の見通しと課題を考える」で日本の長期的な人口減少の課題が解説された。日本の人口は1950年が0.84億人・2022年が1.24億人・2100年が0.74億人でピーク時の42.4%減となる。1947~49年は団塊世代と言われ出生が年間269万人となり、1970年代にその団塊ジュニア世代で増加が見られたものの、その後50年間減少が続き、2023年の出生は76万人となり、2005年には死亡数が出生数を上回り人口減少時代となった。人口減少の原因は少子化であり、結婚阻害要因として1. 非婚化 2. 結婚コストの上昇 3. 晩婚化などがあり、育児阻害要因としては1. 妻の育児負担 2. 夫の育児非協力がああり、経済力要因として1. 若年層の低賃金 2. 養育・教育コストの負担などがある。政府は異次元の少子化対策を掲げるが効果は疑問がある。スウェーデンは合計特殊出生率が日本より高く、その原因は婚外子が54.5%あり日本の2.3%と大きな差があり、移民人口割合はスウェーデン18.9%で日本は2.2%である。日本の適正人口を安倍内閣は人口1億人を目標としたが、「人口戦略会議」は「2100年の人口は6300万人とされているが、8000万人(外人10%)で安定させて成長力のある社会を目指すべき」と提言した。しかし今後も下方修正は続くと思われる。政府の少子化対策は子育て支援に偏り、肝心の結婚対策や若年層の賃金上昇が欠けている。欧米を見ると人口小国は経済弱国ではなく、日本は人口減少の呪縛から解放されるべきである。

第3回は「日本の賃金の特殊性と課題を考える」で、バブル崩壊以降長期間伸び悩んでいた賃金の特殊性と課題が解説された。実質現金給与総額は2022年4月から22ヶ月連続でマイナスである。賃金は2%伸びたが食料・エネルギーなどの物価上昇は4%となり実質マイナスとなった。名目賃金は賃金が高い非正規・女性・高齢者の増加により、加重平均がマイナスとなった。しかし、正規雇用者の基本給の削減は少なかった。現金給与総額(月額)は1997年37.2万円でピークとなり、2013年は31.4万円で底を打ち、2023年は33万円で25年前の1997年よりも低い。その原因はバブルの崩壊、金融機関の貸し剥がしや貸し渋り、デフレなどで、1998年より「賃金・冬の時代」となった。その間高齢者・女性・非正規等の低賃金雇用者が増加したので、人手不足にもかかわらず賃金は上昇しなかった。企業の利益剰余金は賃金として支払われず企業内に留保された。

最後に追加資料「マイナス金利の解除とは何か」が解説された。

受講者の言葉：・日本経済入門講座は資料、お話の内容ともに大変充実していて有意義な時間を過ごすことができました。日頃、疑問に思っていることがクリアになりました。・経済について話を聞く機会が少ないので3日間の内容は大変興味深くよくわかった。表やグラフが多く理解するためにもよかった。難しい内容ではあるがこれから新聞やニュースなどを見る時大変役立つと思う。日本経済についてまた講義があればよいと思います、ありがとうございました。・中国経済が減速期に入ったといわれるがやはり大国であることを講師の分かり易い話とグラフ、資料から理解できた。それにしても成長を続けるアメリカのすごさに改めて驚いた。11月のアメリカ大統領選挙によっては、日本経済もどうなっていくのか大変気になります。

(糸井史郎)



「千住宿開宿400年に向けて」

4月の月例会は足立区立郷土博物館学芸員の多田文夫氏より「千住宿開宿400年にむけて」と題して講演をして頂きました。来年、足立区では千住宿開宿400年のイベントを行う予定で様々な準備をされており、郷土博物館にはそれに向けての講演依頼がたくさん来ているそうです。私ども楽学の会がその皮りの講演ということでした。

まず千住宿の基本情報について説明があり、年代は寛永2年(1625年)日光山造営法度で整備され、日光道中・千住宿となりました。宿場とは①駅伝(人馬の継立)②宿泊③書状の送受の三大機能が揃っていることが定義であり、この3つが揃ったのが寛永2年だそうです。名称はせんじゅじゅくといいます。江戸4宿の中で最も大きい宿場であり、当時1万人近い人口で日光道中、奥州道中の中でも最大の宿場でした。

開宿の年代について

年代	内容
文祿3年 1594年	千住大橋架橋
慶長2年 1597年	驛場村となる
元和3年	初の日光社参り、徳川秀忠
1617年	や公卿、大名が通行
寛永2年	日光山造営法度で整備
1625年	日光道中・千住宿となる

千住宿の歴史をたどる

千住宿の整備

- 【①】千住の「コウケイ」宿場
- 【②】日光山造営法度(日光山)の整備
- 【③】千住の「コウケイ」宿場

最大の任務

日光道中・千住宿の皇族の日光門主の通行

- 皇族、日光門主(日光山)の通行
- 皇族、日光門主(日光山)の通行
- 皇族、日光門主(日光山)の通行

日光道中の陸運

参勤交代と商人たち

日光道中の陸運、参勤交代と商人たちの活躍

千住宿からの街道が日光道、水戸佐倉道、八条道などへ伸び、まさに街道の扇の要でした。更に陸運と水運(舟運)に恵まれた場所で利便性がよく、商業が栄え流通の街には問屋が多く幕府御用市場の問屋もありました。今でも旧街道沿いに横山家、名倉医院、絵馬屋などの建物があり、当時を偲ぶことができます。

千住宿を通る街道

千住宿を通る街道

盛んな水運

上り下りが出来る川

盛んな水運

宿場の建物から

宿場の建物から

千住河原町稲荷神社と金銅装神輿(千貫神輿)

千住河原町稲荷神社と金銅装神輿(千貫神輿)

また、千住宿の繁栄により大商家、豪農など富裕層が形成され、知縁社会の成立や名士層が形成され、名字帯刀が許される町民もいて文化人との交流も盛んになり、華麗な文化を築きました。区制80周年を契機に実施された文化遺産調査により千住の文化の厚さが明らかになり、権威のある美術雑誌『國華』に特集されました。また、商人たちのちからの遺産でもある華麗な祭具が千住4丁目氷川神社、千住仲町氷川神社、千住河原町稲荷神社などに残っており、現在もお祭り時には山車や神鉾などが組み立てられています。あらためて江戸開闢と同じ400年の歴史を持つ千住を足立区民として誇りに思います。

千住市場の繁栄は昭和戦前

千住市場の繁栄は昭和戦前

『國華』

千住・足立の文化遺産

『國華』

商人たちの「ちから」の遺産

華麗な祭具

商人たちの「ちから」の遺産

講演にあたり講師の多田氏は絵や写真などたくさんの資料を用意して下さり、親しみのある楽学の会だからと人柄がにじみ出るざっくりばらんなお話で、千住の歴史を楽しく聞かせていただきました。

最後に「千住は江戸か否か?」「芭蕉の旅路の始めは足立か荒川か?」などの質問も出てお答えいただきました。参加者が少なくして申し訳ない思いでした。お忙しいなかご講演頂きました多田様、ありがとうございました。

(ボランティア活動推進部 林令子)

令和6年4月 運営委員会 報告・連絡

日時：令和6年4月1日（金）15:00～
場所：生涯学習センター：5階 研修室 4

代表挨拶：報告および提案：糸井代表代行

- ・令和5年度講座は3/29で13講座が無事終了しました。
- ・令和6年度講座は10講座とその日程が決定しました。（企画会議で配布）
- ・令和5年度の実施報告書は、3月中旬に2月までの原稿が入力と資材依頼が終了しました。
- ・4月22・23日に印刷し、5月10日（金）PM1:00に製本の予定ですので、ご協力をお願いします。
- ・総会は5月15日ですが、業務引継が必要ですので、役割分担を早期決定して下さい。
例えば実施報告書の編集やチラシの封入作業はすでに始まっています。

議事

- (1) 情報交換
 - ・足立区4/1付け人事：生涯学習支援課長 太田照生氏（内田課長交代）
 - ・NPO活動支援センター 4/1付け センター長 須藤雅弘氏
- (2) 月例会開催について
 - ・3月27日（水）お花見 汐入公園 11名参加
 - ・4月16日（火）郷土博物館より講演「千住宿400年の始まり」講師 多田文夫学芸員、研1
- (3) あだち区民大学塾：講座企画会議：4/1（月）、5/1（水） 検討会議：4/16（火）、5/15（水）
 - ・3月 足立の伝統工芸三味線と篠笛 3/22（金）鈴木祐一講師、3/29（金）大塚敦講師 受講者28名
 - ・4月 日本経済入門2024 中国・人口・賃金 4/6, 13, 20（土）柴田 寛講師 応募者33名
 - ・5月 腸内メンテナンス 5/11,18（土）山本めぐみ講師 締切4/26
- (4) 令和5年度事業報告、令和6年度計画
 - 学習支援部、ボランティア活動推進部、広報G、事務局より事業報告、計画を報告
 - 令和5年度あだち区民大学塾の報告
（実施状況、受講者男女別、年齢別、分野別講座、今後の講座希望分野、運営スタッフ参加状況）
- (5) 令和6年度講座より変更
 - ・受講申込は往復はがきのみ、メール受付は3月で終了する。
 - ・現ホームページに講座案内、講座開催報告、楽学ニュースをアップする。
新ホームページは4月中で中止、休眠状態とする。Lolipopの契約は1年継続する
 - ・WiFiルータ（Docomo）は3月末解約、返却済
- (6) 令和6年通常総会：5月15日（水）15時～研5
 - ・4/19（金）：理事会；理事、監事配置案、4/23（火）：監査会
 - ・5/1（水）：運営委員会で総会議案書審議、役員確定、決算理事会、総会役割決定
 - ・5/2（木）：ニュース発送、総会案内、議案書、委任状送付
 - ・5/10（金）：5年度講座実施報告書製本作業
 - ・5/15（水）：総会、会費徴収、懇親会開催；場所は日本海
 - ・6/2（金）；ニュース発送、大学塾講座実施報告書を同封、
 - ・6月後半；東京都へ資料提出、東京法務局へ登記
- (7) 各部局からの報告および提案
 - ①学習支援部：4/16 部会、講座チラシを交換便へ封入作業
令和5年度大学塾講座実施報告書作成、4/23、24印刷、製本日5/10（金）13時～
 - ②ボランティア活動推進部：部会 4/9、
6年度サークルフェア（10/12、13開催）へ参加で回答、担当：鈴木
 - ③事務局：ニュース発送 4/2、部会4/10、
ボランティア保険 加入申込手続き済
4月より経費申請方式変更：出金伝票と領収書添付を1票で処理する（経理担当作業効率化）
6年度講座より受講者への受講料領収書の改定（受講者名記載せず）（受付作業の簡素化）
上記の経理処理が運営委員会で承認され、4/6～日本経済入門講座より適用する
 - ④広報グループ：楽学ニュース 305号発行、メルマガ202号発行、HP更新

次回 運営委員会 5月1日（水）15:00から（研3）

生涯学習センター 講座情報

◎講座名：文学散策 森鷗外のキラキラネーム ドイツ語の名前について

あだち 100 年大学講座

日 時：6/9 (日)・16 (日) 午後 2 時～4 時

対 象：16 歳以上の方

定 員：40 人 (対面)、10 人 (オンライン)

※いずれも事前申込先着順

受講料：1,430 円 ※交通費実費

会 場：5 階 研修室 1 (対面)

6/16 は文教区京区立森鷗外記念館

(文京区千駄木 1-23-4)

講 師：美留町 義雄 氏 (大東文化大学文学部 教授)

内 容：森鷗外は、自分の子や孫に欧米風の名前を付けていました。この講座では、長男の於菟(おと)や長女の茉莉(まり)などその由来について説明するとともに、漢字表記に盛り込まれた東洋の故事や思想についても言及します。それは、鷗外が西洋文化といかに向かい合い、日本人の人格の中に受け入れようとしたのか、その一端を探る試みにもなるでしょう。

◎講座名：獨協大学連携① アイルランドハ ロウィーンの祭りから考える私たちの社会

あだち 100 年大学講座

日 時：6/15 (土) 午後 2 時～3 時 30 分

対 象：16 歳以上の方

定 員：30 人 ※事前申込先着順

受講料：800 円

会 場：5 階 研修室 2

講 師：児嶋 一男 氏

(獨協大学外国語学部英語学科 教授)

内 容：アイルランド、異界への旅 一境界に棲むもの、ハロウィーンの祭—エメラルドグリーンの島アイルランドの神話、妖精、ハロウィーンの風習から、出身地、民族、人種、国籍、宗教などの違いからうまれる境界意識とわたしたちの社会について考えます。

お申込みは：電話(03-5813-3730) 又は直接窓口
インターネット [近所 de まなびナビ] で検索
イベント・講座情報→講座予約システム

月例会のご案内

令和 6 年 5 月「通常総会」のご案内

5 月 15 日 (水) 午後 3 時～5 時

テーマ：「令和 5 年度事業報告・会計報告 等」

「令和 6 年度事業計画・会計 (案) 等」

令和 6 年 6 月「月例会」のご案内

6 月 20 日 (木) 午後 3 時～5 時

テーマ：「令和 6 年度 区/生涯学習に関する施策」

「令和 6 年度 生学センター/事業方針」

* 皆様の積極的な参加をお待ちしています。
(ボランティア活動推進部)

楽学インフォメーション ★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
5 月 1 日(水) 午後 3 時～4 時 研修室 3
- ◎ 月例会
5 月 15 日(水) 午後 3 時～5 時 研修室 3
- ◎ 学習支援部
5 月 15 日(水) 午後 1 時～2 時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部
5 月 7 日(火) 午後 2 時～4 時 ワークルーム
- ◎ 事務局
5 月 2 日(木) 午後 1 時半～4 時 ニュース発送
5 月 8 日(水) 午後 13 時半～4 時 事務局部会
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
5 月 15 日(水) 午後 2 時～3 時 研修室 1
- ◎ 大学塾講座企画会議
5 月 1 日(水) 午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
5 月 13 日(月)

★お問い合わせ & ご意見

◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ

事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444

E-Mail : tefukuda2002@yahoo.co.jp

編集後記

脱炭素化社会に向けて 再生可能エネルギー導入と加速化の必要性(2)

再生可能エネルギー導入によるメリット(続編)

また、洋上風力発電等の新技術へのニーズも高まっており、他国に遅れることなく新市場に参入していくためには、国内市場をベースとした新技術の実証、継続的な技術開発を行い、海外展開を積極的に図る必要がある。また、地熱発電タービンや風力発電機用軸受、太陽電池用封止フィルム等、現状で高いシェアを有する個別機器・部材・素材の競争力の維持・強化のためにも再生可能エネルギーの内需拡大が重要である。**地域の活性化**：戸建住宅の屋根面、豊富な日射、安定した風、落差ある河川、温泉に代表される地熱、森林資源など、再生可能エネルギーは、都市部より郊外・地方部における導入ポテンシャルが大きい。これらの日本特有のポテンシャルを活かし、地域に根差した再生可能エネルギービジネスの振興を図ることにより、地域の活性化につながる事が期待される。**非常時のエネルギーの確保**：これらの多くの再生可能エネルギーは分散型エネルギーであり、災害等により集中型エネルギーの供給が途絶えた場合でも継続的な発電が可能であることから災害等の非常時における最低限必要なエネルギーの供給源として活用することが期待されている。先の東日本大震災では、多くの被災者が住宅用太陽光発電からの電力や太陽熱での温水を活用し、その有用性を実感している。また、六ヶ所村で実施中のスマートグリッド実証事業では、被災後も電力供給が可能であったことなど、再生可能エネルギーの非常用電源としての有効性が確認されている。2021 年 10 月に閣議決定された「第 6 次エネルギー基本計画」では、再生可能エネルギーを主力電源化することが宣言され、状況に応じてそれ以上を目指すことがうたわれています。その基準となる年が 2030 年度。あと 6 年弱に迫っています。再生可能エネルギー普及のためには、個人も企業も一つひとつ地道な努力を続ける以外にないのです。次号へ続く (金子勝治)